

定期作況報告（最終）

（第7号 平成18年11月20日）
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

《平成17年》

11月：平年に比べ最高気温は上旬が4.6 高く、中旬が2.2 低く、下旬が同じ、最低気温は各旬とも各々7.1、2.1、3.5 高かった。平年に比べ降水量は各旬とも各々6.6mm、9.5mm、15.7mm少なく、日照時間は、上旬が14.4時間多く、中旬、下旬が各々2.6時間、1.2時間少なかった。

12月：平年に比べ最高気温は上旬が0.3 高く、中旬、下旬が各々1.0、3.2 低く、最低気温は各旬とも各々1.6、1.2、5.0 低かった。平年に比べ降水量は上旬、下旬が各々18.5mm、1.9mm少なく、中旬が9.0mm多く、日照時間は上旬、下旬が各々13.9時間、4.8時間多く、中旬が9.6時間少なかった。

《平成18年》

1月：平年に比べ最高気温は上旬、中旬が各々2.6、1.2 低く、下旬が0.4 高く、最低気温は上旬、中旬が各々3.2、0.2 低く、下旬が2.9 高かった。平年に比べ降水量は各旬とも各々11.1mm、0.1mm、1.2mm多く、日照時間は上旬が13.8時間多く、中旬、下旬が各々11.4時間、5.9時間少なかった。

2月：平年に比べ最高気温は上旬が1.8 低く、中旬、下旬が各々1.7、3.7 高く、最低気温は上旬が0.2 低く、中旬、下旬が各々2.3、5.3 高かった。平年に比べ降水量は各旬とも各々2.7mm、22.3mm、2.9mm多く、日照時間は上旬が0.6時間多く、中旬、下旬が各々19.4時間、16.2時間少なかった。

3月：平年に比べ最高気温は上旬、中旬が各々1.8、1.0 高く、下旬が0.3 低く、最低気温は各旬とも各々1.9、1.4、1.4 高かった。平年に比べ降水量は各旬とも各々6.7mm、4.7mm、2.5mm多く、日照時間は各旬とも各々7.5時間、17.9時間、12.7時間少なかった。

4月：平年に比べ最高気温は各旬とも各々3.4、2.5、3.0 低く、最低気温は上旬、中旬が各々2.0、1.2 低く、下旬が同じであった。平年に比べ降水量は上旬、下旬が各々8.8mm、4.1mm少なく、中旬が3.7mm多く、日照時間は各旬とも各々11.2時間、13.8時間、5.4時間少なかった。

5月：平年に比べ最高気温は上旬、中旬が各々0.4、2.6 高く、下旬が1.3 低く、最低気温は上旬、下旬が各々0.2、1.5 低く、中旬が0.5 高かった。平年に比べ降水量は上旬、下旬が各々4.9mm、12.9mm多く、中旬が8.0mm少なかった。日照時間は上旬、中旬が各々22.0時間、22.1時間多く、下旬が3.5時間少なかった。

6月：平年に比べ最高気温は上旬、下旬が各々2.3、1.5 低く、中旬が0.1 高く、最低気温は各旬とも各々0.5、1.6、1.1 高かった。平年に比べ降水量は上旬、下旬が各々8.7mm、31.4mm多く、中旬が9.9mm少なく、日照時間は各旬とも各々31.1時間、15.6時間、26.3時間少なかった。

7月：平年に比べ最高気温は上旬、中旬が各々2.9、0.8 高く、下旬が0.6 低く、最低気温は上旬、中旬が各々0.8、2.2 高く、下旬が2.4 低かった。平年に比べ降水量は上旬、下旬が各々38.4mm、25.9mm少なく、中旬が58.8mm多く、日照時間は上旬、下旬が各々32.2時間、24.6時間多く、中旬が14.6時間少なかった。

8月：平年に比べ最高気温は各旬とも各々2.8、3.4、2.2 高く、最低気温も各旬とも各々2.1、4.4、3.1 高く、平年に比べ降水量は上旬、下旬が各々13.6mm、0.3mm少なく、中旬が180.0mm多く、日照時間は上旬が13.7時間多く、中旬、下旬が各々19.0時間、5.6時間少なかった。

9月：平年に比べ最高気温は上旬が0.2 低く、中旬、下旬が各々1.4、0.2 高く、最低気温は上旬が

0.8 高く、中旬、下旬が各々0.5、0.2 低かった。平年に比べ降水量は各旬とも各々16.3mm、41.4mm、21.6mm少なく、日照時間は上旬が12.3時間少なく、中旬、下旬が各々16.7時間、19.0時間多かった。

10月：平年に比べ最高気温は上旬が2.3 高く、中旬、下旬が各々0.8、0.5 低く、最低気温は上旬が2.6 高く、中旬、下旬が各々0.8、2.9 低かった。平年に比べ降水量は上旬、下旬が各々8.1mm、14.1mm少なく、中旬が41.3mm多く、日照時間は、上旬、下旬が各々10.6時間、24.2時間多く、中旬が4.4時間少なかった。

根雪終は4月17日で、平年に比べ4日遅く、積雪期間が平年に比べ3日長かった。耕鋤始は4月30日で平年に比べ9日遅かった。晩霜は5月25日で平年に比べ16日遅かった。（表1）。

平成17年11月から平成18年10月までの気象は表2の通りである。

表1 季節

	初霜 (前年)	降雪始 (前年)	根雪始 (前年)	根雪終 (月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月日)	耕鋤始 (月日)	晩霜 (月日)
本年	10.06	10.25	11.25	4.17	144	4.18	4.30	5.25
平年	10.13	10.24	11.24	4.13	141	4.26	4.21	5.9
比較	7	1	1	4	3	8	9	16

注1) 本年は平17～18年の値。

2) 根雪始、根雪終、積雪期間、耕鋤始は比布園場の観測値。平年は過去10か年の平均値。

3) 初霜、降雪始、降雪終、晩霜は旭川市の観測値。平年は過去10か年の平均値。

4) 印は平年に比べて早いおよび短いを示す。

表2 平成18年度気象表

(上川農試)

年 月	最高気温()			最低気温()			平均気温()			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
平成17 11	上	12.6	8.0	4.6	7.6	0.5	7.1	7.6	4.1	3.5	31.5	38.1	6.6	6	7	1	34.6	20.2	14.4
	中	2.2	4.4	2.2	0.0	-2.1	2.1	0.0	1.2	1.2	33.0	42.5	9.5	9	7	2	13.7	16.3	2.6
	下	2.9	2.9	0.0	-0.2	-3.7	3.5	-0.2	-0.5	0.3	26.0	41.7	15.7	8	7	1	18.4	19.6	1.2
12	上	-0.9	-1.2	0.3	-9.0	-7.4	1.6	-4.9	-4.0	0.9	11.5	30.0	18.5	4	8	4	32.4	18.5	13.9
	中	-3.7	-2.7	1.0	-10.7	-9.5	1.2	-6.8	-5.8	1.0	41.5	32.5	9.0	9	8	1	4.4	14.0	9.6
	下	-6.7	-3.5	3.2	-15.9	-10.9	5.0	-10.9	-6.8	4.1	25.0	26.9	1.9	5	8	3	22.7	17.9	4.8
平成18 1	上	-7.0	-4.4	2.6	-15.7	-12.5	3.2	-11.1	-8.0	3.1	33.8	22.7	11.1	9	7	2	33.8	20.0	13.8
	中	-6.1	-4.9	1.2	-14.3	-14.1	0.2	-9.8	-9.0	0.8	14.8	14.7	0.1	3	5	2	14.8	26.2	11.4
	下	-4.8	-5.2	0.4	-11.2	-14.1	2.9	-7.9	-9.0	1.1	24.8	23.6	1.2	6	7	1	24.8	30.7	5.9
2	上	-5.9	-4.1	1.8	-13.4	-13.2	0.2	-9.5	-8.2	1.3	18.0	15.3	2.7	4	6	2	34.4	33.8	0.6
	中	-2.1	-3.8	1.7	-11.3	-13.6	2.3	-6.2	-8.1	1.9	39.5	17.2	22.3	8	6	2	17.2	36.6	19.4
	下	1.8	-1.9	3.7	-7.4	-12.7	5.3	-2.9	-7.1	4.2	16.5	13.6	2.9	5	4	1	24.0	40.2	16.2
3	上	0.5	-1.3	1.8	-9.6	-11.5	1.9	-3.8	-5.9	2.1	28.5	21.8	6.7	6	6	0	37.1	44.6	7.5
	中	2.4	1.4	1.0	-6.6	-8.0	1.4	-1.5	-3.0	1.5	21.0	16.3	4.7	6	6	0	25.4	43.3	17.9
	下	3.4	3.7	0.3	-3.6	-5.0	1.4	0.0	-0.5	0.5	19.0	16.5	2.5	5	5	0	36.8	49.5	12.7
4	上	3.2	6.6	3.4	-5.1	-3.1	2.0	-0.7	1.8	2.5	5.5	14.3	8.8	2	4	2	40.9	52.1	11.2
	中	7.7	10.2	2.5	-1.3	-0.1	1.2	3.2	4.9	1.7	25.0	21.3	3.7	6	3	3	36.7	50.5	13.8
	下	10.5	13.5	3.0	1.6	1.6	0.0	5.8	7.4	1.6	11.0	15.1	4.1	3	3	0	42.4	47.8	5.4
5	上	15.3	14.9	0.4	2.7	2.9	0.2	8.8	8.8	0.0	41.5	36.6	4.9	3	4	1	74.9	52.9	22.0
	中	20.2	17.6	2.6	6.2	5.7	0.5	13.5	11.5	2.0	18.5	26.5	8.0	3	4	1	74.6	52.5	22.1
	下	19.0	20.3	1.3	7.0	8.5	1.5	13.2	14.3	1.1	40.0	27.1	12.9	6	4	2	51.4	54.9	3.5
6	上	18.5	20.8	2.3	9.4	8.9	0.5	13.5	14.6	1.1	34.5	25.8	8.7	4	4	0	26.5	57.6	31.1
	中	22.6	22.5	0.1	13.1	11.5	1.6	17.4	16.7	0.7	9.5	19.4	9.9	1	3	2	33.1	48.7	15.6
	下	22.6	24.1	1.5	14.2	13.1	1.1	17.9	18.4	0.5	52.0	20.6	31.4	6	3	3	27.7	54.0	26.3
7	上	26.5	23.6	2.9	14.9	14.1	0.8	20.4	18.5	1.9	3.0	41.4	38.4	2	4	2	65.6	33.4	32.2
	中	26.3	25.5	0.8	17.9	15.7	2.2	21.4	20.2	1.2	106.5	47.7	58.8	5	5	0	27.9	42.5	14.6
	下	26.1	26.7	0.6	14.9	17.3	2.4	20.0	21.6	1.6	45.5	71.4	25.9	4	5	1	69.7	45.1	24.6
8	上	29.1	26.3	2.8	19.5	17.4	2.1	23.9	21.5	2.4	35.5	49.1	13.6	1	4	3	57.1	43.4	13.7
	中	29.0	25.6	3.4	20.3	15.9	4.4	23.9	20.3	3.6	204.0	24.0	180.0	6	3	3	33.1	52.1	19.0
	下	26.7	24.5	2.2	17.8	14.7	3.1	21.7	19.2	2.5	60.5	60.8	0.3	6	4	2	44.8	50.4	5.6
9	上	23.2	23.4	0.2	13.8	13.0	0.8	18.2	17.8	0.4	38.5	54.8	16.3	3	4	1	38.8	51.1	12.3
	中	22.2	20.8	1.4	10.2	10.7	0.5	15.9	15.6	0.3	10.5	51.9	41.4	2	5	3	59.6	42.9	16.7
	下	19.3	19.1	0.2	7.9	8.1	0.2	13.1	13.2	0.1	19.0	40.6	21.6	3	5	2	67.2	48.2	19.0
10	上	18.7	16.4	2.3	8.7	6.1	2.6	12.9	10.9	2.0	35.5	43.6	8.1	4	5	1	50.3	39.7	10.6
	中	13.8	14.6	0.8	3.0	3.8	0.8	8.6	9.0	0.4	71.0	29.7	41.3	7	5	2	38.5	42.9	4.4
	下	11.4	11.9	0.5	-0.3	2.6	2.9	5.1	6.9	1.8	23.0	37.1	14.1	4	6.0	2	57.8	33.6	24.2

- 1) 比布アメダス観測値。
- 2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。
- 3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

(1) 水 稲 : 良

事 由：出芽器使用による出芽の揃いは概ね良好であった。移植時の苗素質は草丈、主稈葉数および地上部乾物重が平年より多少優っていた。

移植後から6月上旬にかけて気温がやや低く、日照不足の状態が続いたため、苗の植え傷みが目立ち、活着は緩慢であった。分けつの発生もかなり遅れた。幼穂形成期は平年に比べ2～4日遅く、止葉期では平年より1～2日遅かった。7月中旬の㎡当たり茎数は平年対比で75～83%と少なく、草丈は平年より若干高かった。出穂期は平年より2～3日遅かった。穂揃いは良好で穂揃い日数は平年より1日短かった。

成熟期は平年に比べ遅れ、特に中苗「きらら397」は平年より9日遅かった。成熟期における稈長は成苗「きらら397」が平年に比べ3cm長く、中苗では平年並からわずかに短かった。穂長は平年に比べ1cm前後長かった。㎡当たり穂数は平年対比で81～87%と少なかった。

〔籾数〕：一穂籾数は平年より1割程度多かった。㎡当たり籾数は中苗「きらら397」が平年よりやや少なく、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」はそれぞれ平年対比88、92%と少なかった。

〔稈歩合・稈歩数〕：稈歩合は平年より高かった。㎡当たり稈歩数（㎡当たり籾数×稈歩合）は中苗「きらら397」が平年対比で102%とやや多く、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」は95%前後でやや少なかった。

〔登熟歩合・㎡当たり登熟籾数〕：登熟歩合は平年をかなり上回った。㎡当たり登熟籾数（㎡当たり籾数×登熟歩合）は中苗「きらら397」は平年を上回り、中苗「ほしのゆめ」は平年並、成苗「きらら397」は平年を下回った。

〔精玄米千粒重〕：平年より1.5g程度重かった。

〔精玄米重〕：粒厚1.90mm以上の収量は中苗「きらら397」が平年対比111%、中苗「ほしのゆめ」が同109%、成苗「きらら397」が同108%であった。

〔検査等級〕：各品種・苗とも1等であった。

以上、いずれの品種・苗も収量が平年を上回り、品種・苗をこみにした収量の平年対比は109%であった。このため、本年の作況は良である。

表3 平成18年度 水稻の生育および収量

		品種・苗	きらら397・中苗		ほしのゆめ・中苗		きらら397・成苗		
		年次	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
生 育 期 節	播種期	(月・日)	4.17	4.16	4.17	4.16	4.13	4.14	
	移植期	(月・日)	5.19	5.19	5.19	5.19	5.19	5.19	
	幼穂形成期	(月・日)	7.04	6.30	7.02	6.28	6.29	6.27	
	止葉期	(月・日)	7.18	7.17	7.17	7.15	7.16	7.14	
	出穂期	(月・日)	7.29	7.27	7.29	7.26	7.27	7.24	
	穂揃日数	(日)	4	5	5	6	5	6	
	成熟期	(月・日)	9.20	9.11	9.11	9.09	9.14	9.10	
	登熟日数	(日)	53	46	44	45	49	48	
	生育日数	(日)	156	148	147	146	154	149	
苗 生 育	草丈	(cm)	12.7	10.0	14.0	10.8	13.6	10.3	
	葉数	(枚)	3.4	3.1	3.4	3.0	4.5	3.9	
	地上部乾物重	(g/100本)	2.66	2.12	2.62	2.04	4.54	3.64	
本 田 生 育	主 稈 葉 数	6月10日	(枚)	5.6	6.2	5.4	5.9	6.5	6.7
		6月20日	(枚)	7.4	8.0	7.0	7.5	8.3	8.3
		6月30日	(枚)	8.8	9.4	8.4	8.9	9.5	9.6
		7月10日	(枚)	10.3	10.6	9.4	9.9	10.8	10.7
		7月20日	(枚)	11.1	11.3	10.0	10.4	11.5	11.1
		7月30日	(枚)	11.1	11.3	10.1	10.4	11.5	11.1
	止葉葉数	(枚)	11.1	11.3	10.1	10.4	11.5	11.1	
田 生 育	m ² 当 た り 茎 数	6月10日	(本)	110	227	104	226	154	263
		6月20日	(本)	337	524	325	506	420	617
		6月30日	(本)	584	939	581	895	691	936
		7月10日	(本)	826	982	880	997	840	954
		7月20日	(本)	677	907	744	925	707	849
		7月30日	(本)	657	795	689	821	676	787
育 丈	草	6月10日	(cm)	21.7	21.8	23.8	22.7	24.2	23.3
		6月20日	(cm)	28.3	27.7	30.6	29.2	32.0	30.1
		6月30日	(cm)	35.3	40.4	39.4	43.0	40.7	42.3
		7月10日	(cm)	52.0	55.6	59.8	59.2	57.8	56.4
		7月20日	(cm)	68.1	66.8	74.9	72.8	74.0	71.0
		7月30日	(cm)	83.1	80.8	91.9	86.7	86.1	81.2
本 田 生 育	稈長	(cm)	64.1	65.5	69.9	70.0	67.9	64.9	
	穂長	(cm)	17.1	16.5	17.1	15.8	17.6	16.5	
	穂数	(本/m ²)	618	712	636	779	594	733	
	有効茎歩合	(%)	74.8	72.5	72.3	78.1	70.7	76.8	
収 量 構 成 要 素	一穂粒数	(粒)	49.8	44.6	46.4	40.9	48.0	44.2	
	m ² 当粒数	(×1000粒)	30.8	31.8	29.5	31.9	28.5	32.4	
	稔実歩合	(%)	96.8	92.0	94.8	91.2	96.6	90.7	
	m ² 当稔実粒数	(×1000粒)	29.8	29.2	28.0	29.1	27.5	29.4	
	登熟歩合	(%)	86.6	79.9	89.1	82.0	87.6	80.8	
	m ² 当登熟粒数	(×1000粒)	26.7	25.4	26.3	26.2	25.0	26.2	
	精玄米千粒重	(g)	24.0	22.4	23.3	21.9	23.9	22.6	
	籾摺歩合	(%)	78.0	78.6	77.0	77.7	77.5	78.6	
収 量	屑米歩合	(%)	2.5	4.7	2.8	5.6	2.2	4.7	
	藁重	(kg/10a)	653	632	650	676	629	607	
	精籾重	(kg/10a)	815	731	775	704	799	732	
	籾藁比	(%)	125	116	119	104	127	121	
	精玄米重	(kg/10a)	636	575	597	548	619	575	
	収量比	(%)	111	100	109	100	108	100	
	検査等級		1	1	1	1中下	1	1	

注1) 平年値:平成11、12、14、16、17年の5か年の平均。

2) 千粒重・精玄米重:粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

(2) 秋まき小麦 : 不良

事由：播種期は平年より1日早い9月6日であり、出芽は良好であった。越冬前の茎数及び葉数は平年をやや下回っていた。根雪終は4月17日で平年より4日遅く、積雪期間は平年より3日長かった。雪腐病発病度は平年より高く、菌種は雪腐褐色小粒菌核病が主体で、紅色雪腐病も散見された。越冬前の茎数が平年より少なく越冬茎歩合も低かったため、起生期後、茎数は少なく推移した。草丈は、4月下旬が低温に経過したため平年より短く経過したが、6月中旬以降の平均気温が平年並み～やや高く経過したため6月下旬には平年並みに回復した。出穂期は平年より2日遅く、成熟期は直前に雨天が続いたこともあり4日遅かった。成熟期における稈長は平年よりやや長く、穂長がやや短かった。リットル重と千粒重は平年よりやや重かったが、穂数、総重が平年を下回り、子実重は平年比91%と低収であった。検査等級は平年よりやや優った。

したがって、本年の作況は不良である。

表4 秋まき小麦の生育および収量

品 種 名		ホ ク シ ン		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	9. 6	9. 7	1
出穂期	(月日)	6.12	6.10	2
成熟期	(月日)	7.21	7.17	4
越冬茎歩合	(%)	82.2	97.4	15.2
雪腐病発病度		40.7	32.7	8.0
葉数 (枚)	H17.10.20	5.4	6.1	0.7
草 丈 (cm)	H17.10.20	31.9	29.6	2.3
	H18. 5.20	31.5	38.5	7.0
	H18. 6.20	92.3	92.4	0.1
茎 数 (本/ m ²)	H17.10.20	1610	1712	102
	H18. 5.20	1084	1238	154
	H18. 6.20	631	718	87
成 熟 期	稈 長 (cm)	88	84	4
	穂 長 (cm)	7.8	8.5	0.7
	穂 数(本/m ²)	604	664	60
総 重	(kg/10a)	1331	1513	182
子実重	(kg/10a)	564	621	57
同上	平年比 (%)	91	100	9
リットル重	(g)	788	772	16
千粒重	(g)	37.3	36.3	1.0
検査等級	(等)	2上	2中	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成13年、14年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

3) 雪腐病発病度の調査は4月20日に行った。

(3)大豆：良

事由：播種期は5月16日で平年より3日早かったが、出芽期は平年並であった。出芽後は気温がやや低く日照時間も少なかったため、生育はやや抑制された。しかし、7月に入り気温が高くなったため、生育は回復し、開花期は平年並となった。登熟期間は全般に高温に推移し、登熟は順調であった。成熟期は両品種ともに1日遅かった。主茎長、主茎節数は両品種とも平年並、分枝数は平年よりやや少なかった。着莢数は平年を上回り、百粒重も平年より重かったため、子実重は「トヨムスメ」で平年比118%、「トヨコマチ」で同120%の多収となった。屑豆率は平年よりも低かった。検査等級は「トヨムスメ」は平年並み、「トヨコマチ」は平年を上回った。

したがって、本年の作況は良である。

表5 大豆の生育および収量

品 種 名		トヨムスメ			トヨコマチ			ユキホマレ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.16	5.19	3	5.16	5.19	3	5.16	5.19	3
出芽期	(月日)	6.1	6.2	1	6.2	6.2	0	6.2	5.31	2
開花期	(月日)	7.12	7.12	0	7.11	7.11	0	7.11	7.11	0
成熟期	(月日)	10.1	9.30	1	9.23	9.22	1	9.22	9.20	2
主茎長 (cm)	6月20日	9.3	11.3	2.0	13.0	13.4	0.4	10.8	13.8	3.0
	7月20日	57	54	3	63	60	3	56	57	1
	8月20日	64	61	3	66	63	3	60	63	3
	9月20日	62	61	1	65	63	2	58	62	4
	成熟期	64	62	2	66	64	2	58	62	4
主茎 節数 (節)	6月20日	3.3	3.6	0.3	3.8	4.1	0.3	3.9	4.0	0.1
	7月20日	10.2	9.8	0.4	11.0	10.8	0.2	10.0	10.4	0.4
	8月20日	10.4	10.2	0.2	11.1	10.9	0.2	10.2	10.9	0.7
	9月20日	10.0	10.2	0.2	10.8	10.9	0.1	9.9	10.8	0.9
	成熟期	10.3	10.2	0.1	11.0	10.9	0.1	9.8	10.8	1.0
分枝数 (本 /株)	7月20日	5.5	6.9	1.4	5.0	6.9	1.9	4.9	5.8	0.9
	8月20日	6.8	7.5	0.7	6.6	6.9	0.3	5.7	6.6	0.9
	9月20日	6.3	7.0	0.7	5.8	6.6	0.8	4.9	6.0	1.1
	成熟期	6.5	7.1	0.6	5.6	6.8	1.2	4.5	6.1	1.6
着莢数 (個)	8月20日	102	85	17	100	82	18	100	86	14
	9月20日	92	75	17	91	76	14	87	79	8
	成熟期	91	77	14	87	77	10	86	78	8
子実重	(kg/10a)	515	437	77	505	412	83	490	424	66
同上平年比	(%)	118	100	18	120	100	20	116	100	16
百粒重	(g)	38.4	37.6	0.8	36.0	35.5	0.5	36.7	37.6	0.9
屑豆率	(%)	0.8	1.8	1.0	1.1	1.7	0.6	0.8	2.6	1.8
検査等級	(等)	3下	3下	-	2下	3下	-	2中	3上	-

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、17年を除く5か年の平均値。ただし、「ユキホマレ」については平成13年から17年の5か年の平均値で、参考値である。

2) は平年より早、 は平年より減を示す。

(4) 小豆 : 不良

事由：播種期が5月25日で平年より4日遅く、出芽期は4～5日遅かった。6月上旬が低温に経過したため初期生育はやや停滞したが、7月に入り高温に経過し、降雨にも恵まれたため生育が回復した。開花期は「サホロショウズ」は平年並みであったが、「エリモショウズ」は最上位分枝節位が例年より1節多かったため4日遅れた。開花期後も生育は順調に経過したが、8月4日の強い風雨により著しく倒伏した。成熟期は概ね平年並みであった。成熟期における主茎長、分枝数は、「サホロショウズ」が平年並みであり、「エリモショウズ」は主茎長が平年並みで、分枝数は多かった。

着莢数は「サホロショウズ」が平年より少なく、「エリモショウズ」は平年並みであった。百粒重が両品種とも平年より軽く、子実重は平年対比で「サホロショウズ」が95%、「エリモショウズ」は92%と低かった。品質は、降雨による腐敗粒、莢発芽の発生が認められ、「エリモショウズ」は屑豆率はやや高かったが検査等級は平年並みであった。一方、「サホロショウズ」は屑豆率が高く、検査等級は平年を大きく下回った。

したがって、本年の作況は不良である。

表6 小豆の生育および収量

品 種 名		サホロショウズ			エリモショウズ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.25	5.21	4	5.25	5.21	4
出芽期	(月日)	6.10	6.5	5	6.10	6.6	4
開花期	(月日)	7.20	7.20	0	7.26	7.22	4
成熟期	(月日)	9.1	9.1	0	9.5	9.6	1
主茎長 (cm)	6月20日	3.8	4.2	0.4	3.9	4.7	0.8
	7月20日	28.5	26.4	2.1	27.9	25.8	2.1
	8月20日	66	68	2	66	64	2
	成熟期	67	67	0	65	65	0
本葉数 (枚)	6月20日	0.9	1.2	0.3	0.8	1.2	0.4
	7月20日	7.9	7.4	0.5	8.6	7.8	0.8
	8月20日	11.4	11.8	0.4	12.0	12.4	0.4
分枝数 (本/株)	7月20日	6.3	5.0	1.3	6.0	4.9	1.1
	8月20日	6.1	6.1	0.0	6.1	6.1	0.0
	成熟期	5.4	5.5	0.1	5.9	5.0	0.9
着莢数 (個)	成熟期	56	64	8	60	59	1
子実重 (kg/10a)		358	378	20	348	380	32
同上平年比 (%)		95	100	5	92	100	8
百粒重 (g)		12.6	13.6	1.0	11.8	12.7	0.9
屑豆率 (%)		4.6	2.1	2.5	2.1	1.4	0.7
検査等級 (等)		4上	2下	-	3上	3上	-

注1) 平年値、前8か年中平成15年(最豊)、16年(最凶)、12年(茎疫病発生)を除いた5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

(5) ばれいしょ : 良

事由: 植付期は5月9日で平年より3日遅かった。その後、平均気温はほぼ平年並みに経過したが、萌芽期は平年より5日遅かった。萌芽後、6月上旬は低温に経過し、また全般に寡照傾向が続いたため、生育はやや遅れ、開花始は平年より3日遅かった。7月は、気温がやや高く経過し、日照がやや少なかったため徒長ぎみの生育となり、7月18~19日連日のスコール状の降雨により著しく倒伏した。8月はかなり高温に経過したため、黄変したが枯凋は進まず、枯凋期は平年に比べ大幅に遅い9月9日であった。上いも重は平年より825kg多く、また、中以上いも重も平年より849kg多く、平年対比117~121%であった。また、でん粉価は平年より1.3%高かった。

したがって、本年の作況は良である。

表7 ばれいしょの生育および収量

品 種 名		男 爵 薯		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
植付期	(月日)	5. 9	5. 6	3
萌芽期	(月日)	5.30	5.25	5
開花始	(月日)	6.25	6.22	3
枯凋期	(月日)	9. 9	8.28	12
茎 長 (cm)	6月20日	33.5	36.2	2.7
	7月20日	59.1	42.5	16.6
	8月20日	(59.5)	(47.4)	(12.1)
上いも収量(kg/10a)		5671	4846	825
中以上いも収量(kg/10a)		4880	4031	849
でん粉価(%)		15.2	13.9	1.3
対平年比	上いも収量	117	100	17
	中以上いも収量	121	100	21

注1) 平年値は、前7か年中、平成11年、16年を除く5か年の平均値。但し、8月20日茎長の平年値は、平成6~9、11、15~16年の7か年の平均値であり、参考値である。

2) は平年より減を示す。